

令和6年度 学校自己評価システムシート （さいたま市立 慈恩寺 小学校）

学校番号 093

【様式】

目指す学校像	あいさつが響き 一人ひとりのよさが輝く 楽しい学校
重点目標	1 子どものエージェンシーをはぐくみ「笑顔・自信・学力」をつける教育の推進。 2 安心・安全で美しい学校づくりに向けた教育環境の推進。 3 保護者、地域から信頼される学校となるCSの実現。 4 教職員の Well-being を実現するための資質向上と働きがいのある職場環境づくり。

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標							実施日令和7年2月13日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	〈現状〉 ○主体的に学ぶ児童を育むために、全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査結果から児童のつよみと課題を見出し、学びの指標、学びのポイント「じ・し・や・く」をもとにした授業の実現。 ○配慮を要する児童への学習意欲の向上と基礎学力の定着に向けた個別最適な学びと協働的な学びの実現。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査を分析すると、国語の「話すこと・聞くこと」、算数の「数と計算」が課題。 ○学ぶ楽しさ、わかる楽しさを味わわせるための授業改善や学習形態の工夫を実現することで、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実。 ○教育 DX の推進と個別最適な学びと協働的な学びの一体化を充実させるための手段として ICT の効果的な活用。	・国語・算数等における各学級のつよみとよわみを明確にし、主体的に学ぶ力をつけるために、課題を解決に向けた方策の設定と結果の見届けを行う。	① 担任が自学級のつよみとよわみを明確にして、目指す児童の姿の実現に向けた方策を考え実施する。当初面談等を通して担任と確認をしながら実施する。日々の教室訪問や授業参観を実施して指導や見届けを行う。また、授業参観実施後に各学級の課題の確認と具体的な方策を設定することで見通しをもち学習指導を展開する。 ② 校内研修で全国学力・学習状況調査を分析して、本校の課題を明確にするとともに、解決に向けての取組を協議する。また、学びのポイントを意識した授業改善や工夫の実現に向けた具体的な方策を立て取り組む。	①研究授業と研究協議会の実施を通して、成果と課題を明確にする。当初面談や評価前面談でつよみとよわみを確認する。 ②全国学力・学習状況調査の分析結果や学級の実態を踏まえた方策を教員が設定することができたか。教職員の学校評価項目「学校課題研修に主体的に取り組んでいる」肯定的評価が80％を上回ることができたか。	① 学テの結果を分析して考察する時間を設定し、成果と課題から今後の授業にいかす研修を設定した。また、「学びの指標」等アンケートを活用することで各自のつよみとよわみを明確にし、授業改善へとつながられる校内研修を実施した。自分の成果と課題をもとに一人ひとりと面談することで3学期の授業改善等のアドバイスを実施した。 ② 学校評価「学校課題研修に主体的に取り組んでいる」において、肯定的評価が95％を上回った。	A	① 当初面談から、担任が児童の実態からつよみとよわみを分析したことをもとに、主体的に取り組める活動を実践する。今後は、めあてをより明確にした授業展開とし、振り返りを発達段階に応じてタブレットを活用をし、子どもたちに「わかりやすい授業」としていく。 ② 研修テーマに沿い、各ブロックで児童に実態に合わせた目標掲げること、具体的な手しを講じることができた。また、学びのじしゃくを意識した授業を実施していく。
2	〈現状〉 ○ISS（インターナショナルセーフスクール）国際認証校(令和2年1月まで)を継承するための活動を実施。 ○生徒指導委員会の実施と教育相談委員会との連携。 〈課題〉 ○ISS（インターナショナルセーフスクール）認証校としての取組を継承した取組の見直しと設備の修理。 ○安全で美しい学校を目指した安全点検や環境整備、清掃活動の充実。	・生徒指導、教育相談、特別支援教育部会の充実と深化。 ・児童にとって安心・安全な学校となるための環境整備。 ・美しい学校の実現に向けた環境美化活動の充実	① 生徒指導委員会を充実するために、具体的な対応策を練る場とする。また、ケース会議や専門機関につなげることで支援の充実を図る。 ② ISS を継承する活動を見直し、児童が安心・安全について主体的に考え行動できるような取組を年間指導計画に位置付ける。	①生徒指導、教育相談部会の見直しを図り、児童の支援を計画的、組織的に対応することができたか。 ②ISS を継承する活動を、年間指導計画に位置付けることができたか。	① 生徒指導部会や教育相談部会の見直しを図り、ケース会議を組織的に実施できた。児童や保護者への迅速な対応、見届けのことを重点にした。また、児童一人ひとりに寄り添い、組織で丁寧に対応している。 ② 今年度、児童理解研修と生徒指導委員会の方法や内容の見直しを実施した。情報共有や生徒指導委員会、ケース会議等の組織での対応を迅速にし、内容の充実が図れた。	A	① 教員の生徒指導、教育相談等の指導力向上に向けた研修を実施する。また、児童一人ひとりに寄り添い、組織で丁寧に対応していく。ISS の目標を継承するために、安全部を中心として計画、運営を行う避難訓練を効果的に取組んでいく。
3	〈現状〉 ○学校運営協議会では、めざす学校像に向けて、子どもたちに付けたい力について熟議。よさである「進んであいさつができる」課題である「自分のよさを知り、自信へとつなげる」について教職員が共有。 ○学校運営協議会、SSN、防犯ボランティア連絡会を定期的に開催し、保護者や地域の方に、本校の教育活動や児童の様子を周知。 〈課題〉 ○保護者、地域等への学校運営協議会等の取組や活動についての広報活動。 ○保護者や地域の方々へ、学校の取組や児童の活動の様子を周知するための工夫、改善。	・保護者、地域の方に、めざす児童像達成に向けた教育活動の公開と学校HPの充実 ・学校運営協議会の熟議をいかした、保護者、地域の方と連携した教育活動の実現	① 校長講話や学校日より、授業参観・懇談会等の挨拶で、学校運営協議会等の取組や児童の様子やよさを積極的に発信する ② 学校HPに、児童の活動を紹介するページを作成したり、学校運営協議会の取組を紹介したりすることでより多くの方に周知する。	①保護者の学校評価「学校の取組や子どもたちの様子がわかる」肯定的評価が85％を上回ることができたか。 ②学校HPに学校運営協議会のページを作成できたか。また、児童の活動紹介や学校日より、学年ページ等の更新を毎月できたか。	① 学校評価の項目「学校の取組や子どもたちの様子がわかる」において肯定的評価が91％を上回る結果となった。保護者参観の運動会実施や授業参観、校外学習等が要因と考える。また、宿泊行事や子ども達の活動様子を学校HPに効果的にアップできた。 ② 学校HPを毎月1回以上更新できた。	B	① 地域から信頼される学校づくりを目指し引き続き青少年育成会の行事など、地域と積極的にかかわっていく。 ② コミスクの充実を図るために、学識者や学校関係者を含め、広い視野と視点をもった学校運営協議委員の選出を検討していく。
4	〈現状〉 ○教職員が一人で悩むことがないように、組織で対応したり、学ぶ場を設けたりと情報の共有。 ○エバンジェリストが中心となり、効果的な ICT 活用等について情報提供や研修を実施。 〈課題〉 ○ICT 活用において技能の差が見られる。技能向上に向けた研修の推進。 ○経験の差による教師の資質向上を図るために、OJT の推進と充実。	・教職員一人ひとりのつよみをいかした資質向上と働き方改革の推進	① 学期ごとに実施する管理職による授業参観、毎月短時間及び長期休業中に実施する服務に関する研修、毎月短時間で実施する学級経営に関する研修、特別支援教育に関する研修、生徒指導に関する研修等において、必要に応じて講師も招聘しながら教職員研修を行う。 ② 個別最適な学びにつながるタブレットやスタディサプリ等の活用の仕方について、エバンジェリストを中心に実技研修や情報共有を定期的に行う。また、教職員がお互いにより取り組みを情報交換できる雰囲気職場とする。	①学校評価「資質向上につながる研修」の項目が、昨年度の肯定的評価を上回ることができたか。 ②エバンジェリストが中心となり、授業で実践できる ICT 活用についての研修を行うことができたか。	①学校評価「資質向上につながる研修」の教員が、4段階評価の4が48％だった。若手教職員へは必要に応じて学級経営、保護者面談、ノートの見方等、ポイントを絞ったアドバイスを行った。学テ結果からの振り返りから授業へと生かす研修を実施した。 ②授業の中で学習タブレットやプロジェクターを活用する事例をエバンジェリストが紹介し、効果的に活用している。また、ICT を活用しペーパーレスによる会議や情報の共有化の成果と考える。安心メールを効果的に活用したり、欠席連絡を Forms で実施したりすることができた。	A	① 教務主任、研究主任のリードのもと、本校の学習の進め方やノートの取り方のスタンダードを確立していく。また、年度当初に、国語、算数の示範授業を実施することで、学習の進め方や板書について共有していきたい。 ② 本校の課題として挙げられた、主体的な活動や本時のまとめを意識した授業となっているかを管理職による教室訪問等で見届ける。また、学テの結果をもとに、各自が活用して、成果と課題をあらいだしたものをもとに、何をすればよいかを全教員で研修することで授業にいかしていく。